

令和5年度 愛知教育大学入学試験問題
標準的解答例または出題の意図及び評価の観点

【前期日程】

科目名： 教育ガバナンス・総合問題

I

問1 ②

問2 ①

問3 ③

問4 ①

問5

(出題の意図)

現代社会が直面している身近な諸問題についてシンプルな英語で論述している文章を提示し、その内容を正確に把握しているかを確認した上で、当該の諸問題について受験生が持っている問題意識と視野の広さ、及びそれらを効果的かつ説得力をもって論述できるかどうかを問う。

(評価の観点)

問題文において展開される筆者の3つの論点を正確に把握し、その一つ一つについての的確に反駁しているかどうか、またその意見の論旨が十分に合理的かどうかを見る。筆者の3つの論点すべてに対応していない場合、もしくは意見の論旨に説得力がない場合は減点の対象とする。また、「400字以上800字以内で述べよ」と問題文では求めているにもかかわらず、字数が400字に達していない場合、逆に800字を超えている場合も減点の対象とする。

II

(出題の意図)

2020年9月にユニセフ・イノチェンティ研究所から報告書「イノチェンティ レポートカード16 子どもたちに影響する世界 先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か」(以下、「レポートカード16」)が発表された。この「レポートカード16」では各国の子どもの幸福度について分析を行っているが、そのなかで日本の子どもは、「身体的健康」は1位であるのに、生活満足度等から導く「精神的幸福度」は37位、総合順位では38か国中20位であるとされている。こうした結果は衝撃をもって新聞等で報道された。また、「レポートカード16」が発表された当時のみ報道がなされたわけではなく、2022年にはNHKで、「レポートカード16」の結果を踏まえ、子どもたちの声に耳を傾ける大規模プロジェクトが行われるなど、「レポートカード16」が及ぼした影響は大きいと言える。

「レポートカード16」の分析結果は日本の子どもたちが置かれている状況を反映したものであり、教育ガバナンスコースへの入学を希望する者には関心をもってもらいたい内容である。なぜなら、教

育ガバナンスコースが求める学生は教育支援専門職として活躍したいという意志を有する者であり、現在の子どもたちが置かれている状況への関心はその大前提とも言えるものであるからである。

以上のことから、これまでに「レポートカード 16」の分析内容と結果について知っていたものだけでなく、知らなかった者にも日本の子どもの幸福度について考える機会をもってもらいたいと考え、出題を行った。

問 1

(評価の観点)

日本の子どもたちは、子どもの死亡率及び過体重の子ども・若者の割合から導く「身体的健康」の順位は高いが、生活満足度及び若者の自殺率から導く「精神的幸福度」の順位は低いなど、順位が高いものもあれば低いものもある。このように、順位が高いものと低いものが混在した状況にあること、その結果総合順位が中位となっていることが述べられていることが必要である。

問 2

(評価の観点)

第一に、「子どもの幸福度の分析指標」の構成要素から自身が取り上げるものを一つ選び、具体的な改善方法を論じているかどうか、その論旨に説得力があるかどうかを見る。問題文では日本の「子どもの幸福度を向上させるためには、順位が低くなっている構成要素の改善を図る必要がある」が、「どの構成要素をどのような方法で改善したらよいと考えるか」と問うているため、構成要素を選び出すことをせず、抽象的に子どもの幸福度を向上させるためには何が必要か等を論じている場合には問題の趣旨に反しており、採点の対象外となる。なお、相対的に順位が高い構成要素を選び出している場合にも採点の対象外となる。また、改善方法の論旨に説得力がない場合も減点の対象となる。

第二に、「順位が低くなっている背景」に言及がなされているかどうか、その論旨に説得力があるかどうかを見る。「順位が低くなっている背景」に言及がなされていない場合、「順位が低くなっている背景」に言及されていてもその論旨に説得力がない場合には、減点が行われる。

第三に、「600 字以上 800 字以内で論ぜよ」と問題文では求めているにもかかわらず、字数が 600 字に達していない場合、逆に 800 字を超えている場合にも減点が行われる。